

各校園長様

選定番号130・217
田島南小中一貫校
大阪市立田島南小学校
大阪市立田島中学校
校長 今垣清彦

令和7年度 大阪市教育委員会「がんばる先生支援」グループ研究A・B共催
文部科学省「学校等における生命(いのち)の安全教育推進事業」

公開授業・公開研修会のご案内(一次案内)

【がんばるA】過去・現在・未来を紡ぐ「生きる」教育 ～Trauma Informed Education～

【がんばるB】5科における小中協働授業改善プロジェクト ～学力のボトムアップと若手育成をめざして～

本校は、令和4年度より小中一貫教育がスタートしました。2小1中が出会い、協働していく中で、小中が一緒に取り組む教育活動の1つが「生きる」教育です。平成28年度から紡ぎ始めた「生きる」教育のカリキュラムは、たくさんの授業者の想いを乗せ、今現在、9学年で14本となりました。この10年の間、現代の社会課題に即した多くの専門家の先生方に出会い、ご教授いただいた科学的なエビデンスを、授業の1つ1つに込めて参りました。統廃合を経て、中学校の専門性や探求心と、小学校の緻密な授業づくりの文化が融合し、どの実践も、主体的・対話的で社会性のある授業に成長しつつあります。

また、「生きる」教育の原点である「安全・安心」の保障を大きく支えるものを、「心も満たす」日々の教科指導とし、授業実践に精進してまいりました。学力(家庭背景なども含む)に課題を抱える児童に、まず勉強を好きになってほしいという願いが研究の柱となっていましたが、一貫校となり、「進路」という新しい概念によりシビアに向き合う研究活動へと移行しているところです。

令和6年度から、上記(B)主題で新しい取り組みをスタートさせ、小学校では研究教科を国語科から社会科に移し、他3科についても中学校と協働しながら、検討を重ね、授業改善に取り組んでいるところです。本年度は、このような「生きる」教育の土台部分となる「授業づくり」や「学校行事」にもスポットをあて、ご提案させていただきたく存じます。

つきましては、がんばる(A)(B)の公開授業・講演会を、同時開催とさせていただき、ご参会のみな様と一緒に、「公教育の可能性」を福祉資源の1つという視点から見出していただけたらと願っております。公務何かとお忙しいとは存じますが、貴校教職員のみな様にご周知いただきますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

記

- | | | |
|-------|--|--------------|
| 1 日 時 | 令和7年9月26日(金) 13時40分～17時 | (受付 13時00分～) |
| | 令和7年9月27日(土) 9時00分～12時30分 | (受付 8時30分～) |
| 2 会 場 | 田島南小中一貫校(大阪市立田島南小学校・大阪市立田島中学校)
〒544-0011 大阪市生野区田島5-23-7 電話 06-6758-1541 | |

3 内容

9月26日(金)5時間目 がんばる(A)

13:00～ 受付開始		
13:40～ 5～9年生「生きる」教育公開授業		
14:40～ オープニング		
14:45～ 授業提案		田島南小学校指導教諭 小野 太恵子
15:00～ 講演会	【生徒指導】 兵庫県立大学環境人間学部 【臨床心理】 山梨県立大学大学院人間福祉学研究科	教授 竹内 和雄氏 特任教授 西澤 哲 氏

9月27日(土) 1・2時間目 がんばる(A)(B)

8:30～ 受付開始		
9:00～ 1～4年生「生きる」教育公開授業		
5・6年生 社会科・理科・英語科公開授業	(国語科・算数科は誌上発表)	
10:00～ オープニング		
10:05～ 研究提案		田島南小学校指導教諭 小野 太恵子
10:30～ 講演会	【授業づくり】 京都大学大学院教育学研究科 【総評】 京都大学大学院教育学研究科	准教授 石井 英真 氏 教授 西岡 加名恵 氏

4. 公開授業詳細

がんばる A

9月26日(金) 「生きる」教育

学年組	授業内容	授業者
5年1組	【パートナーシップ(3時)】 これは愛?それとも支配?	上田 恵
5年2組	【パートナーシップ(1時)】 学ぼう LGBTQ	角谷 拓磨
6年1組	【家庭について考えよう(5時)】 心の傷の治療法	新矢 琢磨
6年2組	【家庭について考えよう(4時)】 人生に必要な「お金」の話	高橋 七星
7年1組	「脳と心と体とわたし~思春期のトラウマとアタッチメント~」	石田 祥子/上田 ひまわり
7年2組	「脳と心と体とわたし~思春期のトラウマとアタッチメント~」	倉 匠 / 田中 梓
8年1組	「リアルデートDV ~支配と依存のメカニズム~」	十倉 雄介
8年2組	「SNS 詐謗中傷 ~思春期における情報モラル教育~」	池永 大祐
9年1組	「社会の中の親と子 ~子ども虐待の事例から~」	檜崎 祐也 / 紙原 大輔
9年2組	「社会における子どもの権利」	梅原 郷花 / 別所 美佐子

9月27日(土) 「生きる」教育

学年組	授業内容	授業者
1年1組	【大切なこころと体(1時)】プライベートゾーン	谷本 涼輔
1年2組	【大切なこころと体(2時)】たいせつなぼく・わたし	和木 龍太郎
1年3組	【大切なこころと体(2時)】たいせつなぼく・わたし	下畠 美来
2年1組	【みんなむかしは赤ちゃんだった(3時)】赤ちゃんのふしぎ	藤原 匠
2年2組	【みんなむかしは赤ちゃんだった(2時)】赤ちゃんを学ぼう	澤井 寛実 / 別所 美佐子
3年1組	【子どもの権利条約(8時)】 こちらお悩み相談室	堀江 実結
3年2組	【子どもの権利条約(6時)】 大切な権利ランキング	村田 一夏
3年3組	【子どもの権利条約(7時)】 守られていない権利は?	程岡 陸斗
4年1組	【LSW 10歳のハローワーク(3時)】 ほしいカオーケション	山田 果奈
4年2組	【スマホについて考えよう(トピック)】 みんなで考えるオンラインルール	吉井 真奈
4年3組	【LSW 10歳のハローワーク(トピック)】 考えようみんなの凸凹	宮川 征大 / 松尾 秋斗

※ 中学校は外部講師による生きる教育にかかる授業をしています。

7年:助産師による性教育「思春期の体と心について」 講師:助産師 市村 真希(90分)

8年:通常授業(90分)

9年:赤ちゃん先生 講師:NPO 法人 ママの働き方ネットワーク (各クラス50分)

がんばる日

9月27日(土) 小学校教科研究

学年組	授業内容	授業者
5年1組	【社会科】「これからの食料生産とわたしたち」	小野 太恵子
6年1組	【理科】「水溶液の性質」	宮木 覚史
6年2組	【外国語】「I want to go to Italy」	吉田 拓弥
誌上発表	【国語科】主体的に読み、書き、話し合うための教材開発	田島南小学校研究部
	【算数科】知識・技能の定着と思考する時間を個別に保障する指導計画	

5. 申し込み方法

定員は200名(申し込み順)になります。参加日(9月26日・27日・両日)、参加者名・所属名・連絡先などを、QRコードを読み取るか、Microsoft Formsからお申込みください【締め切り 9月19日(金)】

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfX6MD7OlfKpgoS8yMSK7GFtTH6-nIC3iP_qe_bHwLMbCGtdg/viewform?usp=preview



6. ご不明な点につきましては、田島南小中一貫校までお問合せください。

田島南小学校教務主任 菊井 威

田島中学校 養護教諭 田中 梢

学校代表メールアドレス s1514@education.city.osaka.jp

【講師紹介】

兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹内 和雄 氏



公立中学校で 20 年間、生徒指導主事等を担当。寝屋川市教委指導主事を経て 2012 年に兵庫県立大学環境人間学部に着任し現在は環境人間学部教授。

生徒指導を専門とし、ネット問題、いじめ、不登校等、課題を持つ子どもへの対応方法について研究している。また令和 4 年に改訂された生徒指導要領にも関わられている。文科省学校ネットパトロール調査研究協力者、総務省青少年インターネット WG 構成員、総務省(近畿総合通信局)「スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する連絡会」座長。著書として『スマートフォン時代に対応する生徒指導・教育相談』ほんの森出版 2014.07、『教育相談の現場:スマホのいじめ』『絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う』ミネルヴァ書房、生野南小学校 教育実践シリーズ『『生きる』教育』全シリーズ(日本標準)ではデータDVの監修を行っている。令和 7 年度に総務省の「令和 7 年度『情報通信月間』総務大臣表彰」を受賞。

山梨県立大学 大学院人間福祉学研究科 特任教授 西澤 哲 氏



兵庫県神戸市出身。大阪大学人間科学部行動学専攻課程を卒業。1988 年サンフランシスコ州立大学修士課程修了。1981 年情緒障害児短期治療施設心理療法士、1989 年大阪府環境保健部心理技師などを経て、2000 年大阪大学人間科学研究科助教授、2007 年に山梨県立大学教授として着任。2025 年現在は山梨県立大学 大学院人間福祉学研究科 特任教授。

人間福祉学研究科は虐待対応に特化した人材育成を行う大学院としては全国初の試みである。虐待などでトラウマを受けた子どもの心理臨床活動を行っており、『『生きる』教育』実践において開発時から指導助言をしてもらっている。著書は『子どもの虐待 子どもと家族への治療的アプローチ』誠信書房 1994、『子どものトラウマ』1997 講談社現代新書、『トラウマの臨床心理学』金剛出版 1999、『子ども虐待』2010 (講談社現代新書)、生野南小学校 教育実践シリーズ『『生きる』教育』全シリーズ(日本標準)である。

京都大学 大学院教育学研究科 準教授 石井 英真 氏



専門は教育方法学(学力研究)。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。日本学術振興会特別研究員(PD)、京都大学大学院教育学研究科 助教、神戸松蔭女子学院大学専任講師を経て、2012年4月より現職。文部科学省初等中等教育局「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会委員。

日米のカリキュラム研究、授業研究の蓄積に学びながら、学校で育成すべき資質・能力を構造化・モデル化し、それらを実質的に実現しうるカリキュラム、授業、評価、教師教育をトータルにどうデザインするかを研究。主な著書に、「再増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開」(単著・東信堂)、「今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影」(単著・日本標準)、「授業づくりの深め方」(単著・ミネルヴァ書房)、「教育『変革』の時代の羅針盤『教育 DX×個別最適な学び』の光と影」(単著・教育出版)などがある。

京都大学 大学院教育学研究科 教授 西岡 加名恵 氏



専門は教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)。京都大学大学院教育学研究科修士課程修了後、英国バーミンガム大学にて Ph.D.(Ed.)を取得。鳴門教育大学講師等を経て、2017年4月より同教授。日本教育方法学会常任理事、日本カリキュラム学会理事、教育目標・評価学会理事。文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」委員(2012年~2014年)なども務める。主な著書に、単著『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』(図書文化、2003年)、単著『教科と総合学習のカリキュラム設計』(図書文化、2016年)、編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』(明治図書、2016年)、共編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』(日本標準、2019年)、共編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』(日本標準、2020年)などがある。2022年10月『『生きる』教育』第一巻「自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ【生野南小学校教育実践シリーズ】(日本標準)」発刊。現在4巻まで発刊されている。